

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2023年10月)

【内政】

- 10日、ダト・スポーツ大臣が就任した。(11日各紙)
- 14日及び15日、野党・民主党(Les Démocrates)第一回総会が開催され、ヤイ前大統領の同党党首就任が決定された。(16日各紙)

【外政】

- タロン大統領、アジャディ・バカリ外務大臣及びワダニ経済・財務大臣は、トゥーレイ西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)委員長と会談した。(11日、L' Economiste 紙他)

【治安】

- 10日、ベナン税関は、コトヌ市近辺の洋上で、玉状に加工した大麻1,804個(計93万1,600kg)を積んだ小舟を追跡の上で拿捕し、乗組員を逮捕した。(19日及び20日各紙)

【経済】

- 9月29日、プラトー(PLATEAU)県ポベ(Pobè)で、豊田通商・CFAOが事業主体の太陽光発電所建設起工式が実施され、一條基信臨時代理大使が出席した。(2日、La Nation 紙他)
- 24日、令和5年度対ベナン無償資金協力「経済社会開発計画」交換公文等署名式が実施され、一條基信臨時代理大使、ワダニ経済・財務大臣及びセイドゥ内務・公共安全大臣等が出席した。(25日、Le Matinal 紙他)

【文化・その他】

- 9月30日及び10月1日、ズー(ZOU)県ボイコン(Bohicon)で、ズー県及びコリーヌ(COLLINES)県柔道大会が開催された。(3日、Le Matin Libre 紙)
- 22日、首都ポルトノボ(Porto-Novo)で、ウエメ(OUEME)県及びプラトー(PLATEAU)県柔道大会が開催された。(26日、Le Matin Libre 紙)
- 24日、アボメ・カラヴィ大学において、ロシア語教育センター開設式が実施され、エフドキモフ・ロシア大使他が出席した。(25日、L' Événement Précis 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L' Événement Précis 紙、L' Economiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- 6日、ホメキ・スポーツ大臣が辞任し、アダンビ・エネルギー・水利・鉱山大臣が代理に就任した。(9日、La Nation 紙、Le Matinal 紙及び L' Événement Précis 紙)
- 10日、ダト・スポーツ大臣が就任した。(11日各紙)
- 14日及び15日、野党・民主党(Les Démocrates)第一回総会が開催され、ヤイ前大統領の同党党首就任が決定された。(16日各紙)

【外政】

- ・ 9月29日、ナイジェリアを訪問中のアジャディ・バカリ外務大臣はトゥガー・ナイジェリア外務大臣と会談し、両国間関係の強化等につき協議した。(2日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 2023年版ヘンリー・パスポート・インデックスによれば、ベナンは計53か国の国民に査証免除またはアライバルビザを認めており、アフリカ諸国の中で、査証免除等を最も多く認めている国の一つである。(4日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ タロン大統領、アジャディ・バカリ外務大臣及びワダニ経済・財務大臣は、トゥーレイ西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)委員長と会談した。(11日、L' Evénement Précis 紙及びL' Economiste 紙)
- ・ 11日、コトヌ市内国際会議場で、フランコフォニー国際市長協会(AIMF)第43回総会が14日までの日程で開会した。(11日、La Nation 紙及びL' Evénement Précis 紙)
- ・ 11日、コトヌ市は、仏マルセイユ市と友好協力協定を締結した。(13日、La Nation 紙及びL' Evénement Précis 紙)
- ・ 12日、コトヌ市は、仏パリ市と協力協定を締結した。(13日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 13日、ウンベジ政府報道官は、イスラエル・パレスチナ情勢に関し、ベナンは多国間主義を支持すると述べた。(17日、Le Matinal 紙)
- ・ 23日、2023-2028年ベルギー・ベナン協力協定締結式が実施され、プラトー・ベルギー大使及びワダニ経済・財務大臣が出席した。(26日、Le Matinal 紙)
- ・ 23日、与党・進歩再生党(UPR党)幹部は、ベナン訪問中の中国共産党代表団と面会した。(25日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 24日、与党・共和党(BR党)幹部は、ベナン訪問中の中国共産党代表団と面会し、中国・ベナン協力関係や両党間協力等について協議した。(25日、Le Matinal 紙)

【治安】

- ・ ベナン国軍は、欧州平和ファシリティーの枠内で、EUから1,175万ユーロ相当の資金供与を受け、情報収集・警戒監視・偵察機能を有する航空機1機及びドローン複数台を受領した。(5日、Le Matinal 紙、6日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 7日、モノ(MONO)県ホエヨベ(Houéyogbé)で通り魔事件が発生し、若年男性がマチェットで6名を負傷させ、逮捕された。(10日、Le Matinal 紙)
- ・ 7日から9日にかけて、ボルグ(BORGOU)県パラク(Parakou)で、サイバー犯罪容疑者32名が逮捕され、スマートフォン44台等が押収された。(10日、Le Matinal 紙)
- ・ 10日、ベナン税関は、コトヌ市近辺の洋上で、玉状に加工した大麻1,804個(計93万1,600kg)を積んだ小舟を追跡の上で拿捕し、乗組員を逮捕した。(19日及び20日各紙)
- ・ 26日、アリボリ(ALIBORI)県マランヴィル(Malanville)で、大麻690kgが押収された。(30日、Le Matinal 紙、31日、L' Economiste 紙)

【経済】

- ・ 9月29日、プラトー (PLATEAU) 県ポベ (Pobè) で、豊田通商・CFAOが事業主体の太陽光発電所建設起工式が実施され、一條基信臨時代理大使が出席した。本事業は国際協力銀行 (J BIC) 融資を利用したもの。(2日、La Nation 紙、Le Matinal 紙、Le Matin Libre 紙)
- ・ 6日、独グローエ社 (LIXIL グループ) は、NGO「SOS Villages d'Enfants」と共同で、アトランティック (ATLANTIQUE) 県アボメ・カラヴィ (Abomey-Calavi) 市内で、配管工事教育センターの運営を開始した。(9日、Le Matinal 紙、L' Economiste 紙及び Le Matin Libre 紙)
- ・ 世界銀行は、アフリカ各国の経済短観報告書「Africa's Pulse」で、ベナンの2023年の経済成長率は5. 8%で、サブサハラアフリカ諸国中第6位と発表した。(13日、Le Matinal 紙)
- ・ 18日、ベナン電気通信・郵便規制局 (ARCEP) とトーゴ電気通信・郵便規制局は、両国の移動体通信事業者のローミングに関する協力協定を締結した。(20日、L' Economiste 紙、23日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 国際通貨基金 (IMF) は、10月に発表した世界経済見通しにおいて、ベナンの経済成長率予測を、2023年は5. 5%、2024年は6. 3%とそれぞれ発表した。(23日、L' Economiste 紙、27日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 20日、スタンダード・アンド・プアーズ (Standard & Poor's) は、ベナンのソブリン格付を「B +」、格付アウトルックを「ポジティブ」とした。(30日、La Nation 紙、31日、Le Matinal 紙及び L' Economiste 紙)
- ・ 24日、令和5年度対ベナン無償資金協力「経済社会開発計画」交換公文等署名式が実施され、一條基信臨時代理大使、ワダニ経済・財務大臣及びセイドゥ内務・公共安全大臣等が出席した。(25日、Le Matinal 紙、L' Evénement Précis 紙及び L' Economiste 紙)
- ・ 25日、コトヌ自治港は、ニジェール向け物品の同港における荷下ろしを原則停止すると発表した。輸送経路変更が行われた物品等は荷下ろし停止の対象外。(27日、L' Evénement Précis 紙及び L' Economiste 紙)
- ・ 26日、IMFは、拡大信用供与措置及び拡大クレジット・ファシリティに関する第三次レビューの終了後、ベナンによる約1億3, 400万米ドルの追加引き出しを可能すると発表した。(30日、La Nation 紙及び L' Economiste 紙)

【文化・その他】

- ・ 9月30日及び10月1日、ズー (ZOU) 県ボイコン (Bohicon) で、ズー県及びコリーヌ (COLLINES) 県柔道大会が開催された。(3日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 22日、首都ポルトノボ (Porto-Novo) で、ウエメ (OUEME) 県及びプラトー (PLATEAU) 県柔道大会が開催された。(26日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 24日、アボメ・カラヴィ大学において、ロシア語教育センター開設式が実施され、エフドキモフ・ロシア大使他が出席した。(25日、L' Evénement Précis 紙)